

長寿応援ファンド助成活動報告書(平成25年度)

活動テーマ	<input type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input checked="" type="checkbox"/> 次世代育成を支援する活動 <input type="checkbox"/> 若者が自主的に企画立案し実施する活動		
活動名	次世代の『井草の人』の“灯り”づくり		
団体名	井草ふるさとネット“灯り” (平成 24 年 2 月設立)		
活動費 (事業終了後確定額)	994,079 円		
助成額(当初交付)	712,000 円	助成額(決算)	712,000 円
活動目的	コンセプトは、新たに井草地域に移り住み地域デビューできなかった次世代と地域住民が一つになれる地域のイベント『井草ふるさと灯りまつり』を通し、“井草のひと”として井草の絆を現世代から次世代へと継承していく心の“灯り”文化創出を支援する。 これにより、次世代の育成をする。		

1 活動の実施状況

*** 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。**

実 施 状 況	5/25	9:00～15:00	花と緑の井草まつり会場 あかり作りワークショップ 一般参加者 約70人 スタッフ 10人
	7/6	13:00～17:00	桃井第五小学校 あかり作りワークショップ 桃五小・八成小の子どもと父母 100人超
	7/7	9:00～15:00	下井草児童館 あかり作りワークショップ 一般 20人
	7/9	13:00～17:00	下井草商店街事務所 提灯絵付け製作 下井草クラブ(敬老会) 6人
	7/10	15:30～17:00	四宮森児童館 あかり作りワークショップ 四宮小の子ども 40人
	7/11	15:00～17:00	井草児童館 あかり作りワークショップ 八成小の子ども 25人
	7/14	11:00～14:00	四宮森児童館 あかり作りワークショップ 乳幼児のお母さん 15人
	7/14	16:00～18:00	桃五小盆踊り会場 7/6に作成した割箸あんどんを会場内に展示
	7/17	15:00～17:00	東原児童館 あかり作りワークショップ 子ども 30人
	7/18	10:00～12:00	東原児童館 あかり作りワークショップ 乳幼児のお母さん 20人
	7/18	15:00～17:00	下井草児童館 あかり作りワークショップ 子ども 90人
	7/21	13:00～16:00	下井草商店街事務所 提灯絵付け・あんどん作り 親子 11人
	7/26	16:00～21:00	あかりライブ in 井荻 駅南の遊歩道 手作りあんどん・提灯の展示
	7/27	16:00～19:00	四宮小学校盆子ども踊り大会あかりライブ 手作りあんどん・提灯の展示
	7/28	13:00～17:00	あかりの町めぐり in 上井草 上井草ふれあいの家～四宮森児童館 移動式あかりステージ
8/4	13:00～21:00	第2回井草ふるさとあかりまつり あかりライブ in 井草&下井草 一般参加者 300人超 あかり展示・移動式あかりステージの街めぐり・大人万灯みこしの巡行 参加者 200人	
8/25	9:00～12:00	四宮森児童館 空間スペースワークショップ 子ども 40人	
10/26	9:00～14:00	花と緑の井草まつり会場 あかり作りワークショップ 一般参加者約60人 スタッフ10人	
11/2	13:00～18:00	2013ハロウィンウォーク in 井草&下井草 あかり作り 260人 参加親子 500人	
12/14	～ 12/25	クリスマス大作戦 巨大あんどんと三角あんどんツリーを製作し下井草駅前に展示 中瀬中有志ボランティア 延べ20人 スタッフ 15人	
1/18・26、2/2		桃五小・四宮森児童館・下井草児童館餅つき大会にて手作りあかりを展示	
3/16	9:00～16:00	妙正寺体育館さよならイベントにて手作りあかりを展示	
当初計画からの変更点			
<p>あかり作りワークショップは、児童館を中心に開催予定だったが、事務局メンバーの働きかけで、桃井第五小学校で、近隣の八成小学校の子どもたちと合同で100人を超す親子が参加し、大盛況だった。特養上井草園に併設のふれあいの家では、やはり近隣の三谷小学校の子どもたちが授業の一環でお年寄りと一緒にあんどんや提灯をつくった。また、あかりの街めぐり in 上井草では、特養上井草園のお年寄りが、車椅子で大勢ロビーホールに集まり四宮の子どもたちと交流し、出発時には外まで見送りにてくれた。クリスマス大作戦は当初の企画には未定だったが、中瀬中学の有志が土日の二日間、特に日曜は朝から飾付の夕方まで、デザインから製作、展示まで自分達で相談し役割分担して和気あいあいの時を過ごした。これらの事は、私たちが計画を変更したというより、参加した地域の方たちによって当初の計画に無かったことが実現されていた好事例です。結果として、費用面では、消耗品の支出が大きく膨らんでしまったが、事業の拡大や機会の増加に伴うものです。</p>			

2 実施活動の効果・成果

* 長寿応援ファンド助成を受けたことによる効果・成果(地域への貢献)を、記入してください。

効果・成果	<p>今回の長寿応援ファンド助成は、私たちの活動を地域の人々に知ってもらおう起爆剤になりました。これまでも主旨に共感してくれる人を中心に地道にやってきましたが、移動式あかりステージや20台のあかり陳列台など、活動の形が見える備品の充実が、地域の皆さんの参加意欲の増大につながりました。同時に、私たちにとっても、点から線、線から面への展開や活動機会の増加につながりました。あかりを通して人々がつながりあうという言葉では曖昧なことが、手作りして、飾って、あかりをつけて、パレードしたり、担いだり、観たりと、本当に誰でも参加でき、そしてみんなでやることの楽しさを実感できるようになりました。井草地域に相応しい落ちついた中にも活気のある人々の輪づくりに貢献できると思います。</p> <p>この活動をさらに発展させていけば、子どもからお年寄までの多くの世代交流が生まれるでしょう。また健常者と障害を持つ方々との交流のや近年増えている住民の国際化に於いても交流の機会が築かれると思います。そのような交流を通して井草らしいまちづくりや文化の継承がなされていくことが真の井草地域の活性化につながっていくものと確信しています。</p> <p>長寿応援ファンド助成を受けたことにより、この活動の基盤が出来、また将来に向かって計り知れない希望がこの井草地域に芽生えました。</p>
-------	--

3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

* 課題の要因も併せて記入してください。

活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定	
課題・活動予定	<p>今回の助成により事業規模が一気に拡大し、また年間活動の機会も増えました。現在のスタッフでは、常に誰かお手伝いを探し回る状態です。スタッフも幅広い年代に声掛けをして充実させていきたい。また、ボランティアを募るなど、メンバーに過度の負担がかかって活動が継続できなくならないように腐心していきたい。基本は、主旨を理解してくれば、できる人が、出来る時に参加し、この地域活動が地域に於ける生涯活動の場となるように進めていきたい。</p> <p>次年度の活動予定は、本年度の活動内容を踏襲しながら、みんなで内容をブラッシュアップしていきたい。</p>

4 収支決算書

* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

		予算額(円)	決算額(円)	内訳
収入	長寿応援ファンド助成金	712,000	712,000	
	団体負担金	30,000	166,873	活動通信費 会議費他不足額を団体より負担
	活動収入	10,000	81,206	地元企業協賛金 イベント模擬店剰余金
	その他の収入	60,000	34,000	寄付金
	計	812,000	994,079	予算額計、決算額計とも支出の計と合致すること

活動名	次世代の『井草の人』の“灯り”づくり
-----	--------------------

費目	予算額(円)	決算額(円)		内訳・増減理由
		うち 助成額		
謝礼金等	40,000	43,345	0	あかりライブ、出演者(民謡保存会)・協力者(敬老会)お礼(菓子・飲物) 2013ハロウィンウォーク、ハロウィンあんどん製作した子どもへのお菓子300人分
消耗品費	266,000	385,802	253,750	あんどん材料(割箸、絵の具・色付け材料、接着材、ワイヤー他) 提灯材料(和紙・セロハン・シール他柄付け材料、塗料他) キャンドルライト、LEDライト、電池、重石用砂他 あかり陳列・灯りを用いた空間スペースワークショップ用角材(木) その他あかり作りワークショップ及びイベント開催時消耗品 *あかり作りワークショップ・あかり作り教室・イベント・陳列機会の開催回数が予定以上に多かった為、消耗品が大幅に増
印刷費	176,000	141,850	141,850	ポスターB3版 200枚 ¥38000 パンフレットA3版 1000枚 ¥50000 ちらしパンフA4版 1000枚 ¥35000 輪転機ちらし 2000枚 ¥10000 カラーコピー ¥8850 *消耗品等の予算超が途中で予想できた為、夏のイベントのポスターB3版200枚(合計2種400枚を下井草商店街に負担してもらい予算節約
通信運搬費	24,000	56,000	20,000	移動式あかりステージ運搬費 ¥20000(5000円×4日) *申請時のイベント開催案内通知等(4000円)は手配りにし節約した。あかり関連消耗品が増えたため節約 スタッフ活動通信費(対象外) ¥36000
使用料・賃借料	25,000	31,000	25,000	あかりライブ会場借用(井草観音堂) あかりライブ会場借用(下井草地主) 道路使用許可 2件(荻窪警察署) ハロウィンウォークあかり作りステーション借用(井草観音堂) 会議・ワークショップ・作業年間使用(下井草商店街事務所) *活動回数が増えたため、予定より増(警察・観音堂)
備品費	271,740	271,400	271,400	移動式あかりステージ製作費
その他の経費	10,000	64,682	0	中学生ボランティア昼食代 ¥7682(対象外) 会議費38回(飲物・茶菓等) ¥57000(対象外)
計	812,740	994,079	712,000	執行率 (決算額/予算額) 122.3% 予算額計、決算額計とも収入の計と合致すること

活動名	次世代の『井草の人』の“灯り”づくり
-----	--------------------

5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・成果	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。 <input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。 井草地域に於ける次世代育成の支援となるべく、灯りを通した文化の創出を媒体に井草の人々の絆づくりをコンセプトに活動した。主旨の徹底により、地域において人々や団体の共感を得られたと思う。地域住民にさらに一歩踏み込んでもらえるようにしたい。
	問5 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。 あかり作りやイベントに参加した子どもから大人まで皆さん楽しかったと言われた。またやりたいという声は大変多く、子どもたちも昨年に続いて参加した子どもが別の初めての子にあかり作りを教えたりと主体的に参加するようになった。また、町会や商店街などの団体からも好感を得られたが、直接的な支援は一部に留まった。地域の重鎮の方々からは、大変だろうが誰かが地域のために犠牲になってでもやってくれることは大変ありがたいとの言葉も聴かれた。地域内の各児童館や小学校・中学校からのご協力にも大変助けられた。
	問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。
	井草地域内の様々な壁。役所、地域割り、町会、商店街、PTA、新旧住民、住民の国際化、普段は気にならなくても、何かしようにかみんなでやろうというときに、見えない壁が現れる。いい場合もあるが、井草地域の人々のつながり作りや交流には住み分けのような障害になることも多い。私たちの活動は、あるものを壊すのではなく、緩やかに、心の部分でつながりあえる機会と場を広めることで相互理解を深め、人つながりの絆社会をふるさと井草で目指していこうというもので、共感を得ていると思う。
	問7 ファンド助成の効果を具体的に記載してください。
備品として移動式あかりステージができ、あかり陳列台20台分が組み立てられる角材を用意できたことにより、今後、小さな予算で、広域に、大勢が、楽しめたり、つながりあえる活動を安定的に続けていける基盤を確立できたことです。長寿応援ポイントに協力して活動をされているお年寄りにも今回あかり作りをしていただきました。こういう活動を助けることにつながるのだということを理解していただけました。また参加してくださるとのこと。次世代の子どもから若者、大人まで、この事業でつながっているんだということを示せたと思います。	
その他	問8 自由意見
	問7でも書きましたが、社会活動が循環して、より良い社会をつくる活動を支援するという制度には、大変共感しましたし、感謝申し上げます。ファンドの使い道が体感できることも理解者を増やし、制度を続けていく上で重要なことと考えます。

長寿応援ファンド助成活動報告書(平成25年度)

活動テーマ	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input type="checkbox"/> 次世代育成を支援する活動 <input type="checkbox"/> 若者が自主的に企画立案し実施する活動		
活動名	すぎなみコミュニティカフェ運営応援事業		
団体名	特定非営利法人 介護者サポートネットワークセンター・アラジン (平成 13 年 11 月設立)		
活動費 (事業終了後確定額)	604,025 円		
助成額(当初交付)	541,000 円	助成額(決算)	541,000 円
活動目的	杉並区内のコミュニティカフェ(地域づくりを目的とした居場所、交流、情報提供の場)や、サロンを応援する地域のボランティア人材の育成と派遣、ミニ講座や外出支援企画の提案など、継続的な運営支援のための事業を行う。		

1 活動の実施状況

*** 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。**

実 施 状 況	<p>6/13、6/20、8/8、10/3、10/31 各ミニ講座開催 ららカフェ 地域の方々 こけ玉、アートフラワー、風鈴づくり、歌声、ノルディックウォーキングなど。 通常カフェを利用しない方も地域に貼ったポスターを見て立ち寄ってくださり、新たなつながりができた。 くまもんを模した風鈴づくりなどは、こどもにも人気があり高齢者が多かったカフェに小学生も参加し世代交流の場となった。</p> <p>7/26、8/9、8/23、9/2、9/6 地域づくりのために居場所・ボランティア養成研修 12名+オブザーバー4名参加 傾聴、介護現場主任者の体験談、車いす介助実習、カフェ実習にあたり珈琲の淹れ方、カフェ実習など。 ボランティアをしてみたい。と思っているけれど、何からはじめたらわからない。という参加者が多かったが、具体的な事例を聞き、実際自分もカフェ実習に参加することで、自分には何ができるのか？を考えるきっかけとなり最終講義ではボランティア登録をし、今あるカフェの中で担っていきたい自分の役割を自発的に発言していた。</p> <p>11/25 ふれあいおでかけツアー 夢の島マリーナ、深川不動堂、富岡八幡宮 18名 ららカフェ、きずなサロン、なかまの家など地域の居場所へなかなか足を運ぶことのできない移動困難な方をご自宅近くまでお迎えに行き、個々のカフェやサロン同士の横の繋がりをはぐくむことができた。ツアーをきっかけにカフェに来ることにつながった人もいた。</p> <p>10/11、10/24、11/14 地域づくりのために居場所・ボランティア フォローアップ研修(カフェマップづくり) 各回20名前後 地域資源マップの作り方について、3包括にわかれてコンセプト・地域資源について話し合い、上記日程以外に各エリアごとに街歩きを複数回実施。</p>
	当初計画からの変更点
	特になし

活動名	すぎなみコミュニティカフェ運営応援事業
-----	---------------------

2 実施活動の効果・成果

* 長寿応援ファンド助成を受けたことによる効果・成果(地域への貢献)を、記入してください。

効果・成果	<p>阿佐谷ブロックにできた3つのコミュニティカフェとサロン、3つの地域包括支援センターがそれぞれつながり、全体として街をカフェを基点に活性化しようという機運が盛り上がってきたこと。 その地域資源を支えようとする市民も広がったこと。 結果、昨年立ち上げたコミュニティカフェを運営する市民ボランティアがチームとなり、自立につながったこと。またカフェマップづくりを進めるにあたり、地域包括支援センターから各地域に住んでいる市民・民生委員や見守り協力員などボランティアさんに声かけがあり、街をあるいてつどい場スペースになる場探索する活動を実施した。それにより、今後のつどい場がさらに増え、つながる活動のベースができたこと。 この地域で、ひとつの目的のもとにさまざまな資源がつながり多くの人がつながることができた。</p>
-------	---

3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

* 課題の要因も併せて記入してください。

活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定	
課題・活動予定	<p>それぞれのコミュニティカフェを運営する人材を厚くすることがひとつのねらいであったが、人数としては1か所につき1~3人にとどまった。さらなる人材の育成が必要だと思われる。またそれぞれのカフェは、おもな対象が地域の孤立しがちな高齢者ということもありランチやカフェメニューの価格を比較的安く設定せざるを得ず、収益にはなかなかつながらないため、財政状況はどれも厳しい。せめて場所代、光熱費の補助など継続的なハード等の経済支援が望まれる。 また、今回はひとつの地域包括支援センターにひとつのカフェ(拠点)ができたが、より多くの住民が交流できる場づくりを鑑み、4月26日に、今回の地域活動と「つどい場掘り起しマップ」の報告会を実施する予定である。一連のコミュニティカフェのきっかけは、いずれも地域にあるつどい場としてのスペースの提供が前提としてあった。今後、こうした場を提供したい人、活動を創りたい人、参加したい人をさらに地域から掘り起こし、適切なマッチングをすることにより、サテライトカフェをあちらこちらに拡げることが計画している。そのために必要な人材として「コミュニティのマネージャー」を育成する研修を6月以降に計画している。 市民にとって、より安心な立ち寄り場を増やしていくことが今後の高齢社会にとっても必要不可欠なことであると思う。さらにつどい場には高齢者だけでなく、子育て中のお母さんたちや子どもたちに来ていただくとますます地域が活性化すると思われる。今後子育て層へのアクションも考えている。尚、松ノ木地域を中心とする地域運営推進委員会(地域包括支援センター・松ノ木町会・民生委員・見守りボランティア・カフェリーダー・移動NPO)も隔月定期開催をし、情報交換を続けていく。このような地域の連絡会をゆるやかに開催することの意義も大きい。</p>

4 収支決算書

* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

		予算額(円)	決算額(円)	内訳
収入	長寿応援ファンド助成金	884,600	541,000	
	団体負担金	50,000	51,025	
	活動収入	20,000	12,000	
	その他の収入	40,000		
	計	994,600	604,025	予算額計、決算額計とも支出の計と合致すること

活動名	すぎなみコミュニティカフェ運営応援事業
-----	---------------------

費目	予算額(円)	決算額(円)		内訳・増減理由
		うち 助成額		
謝礼金等	570,000	279,500	321,500	養成講座講師料:130,000 ミニ講座講師料:20,000 外出支援ツアー謝礼:100,000 阿佐ヶ谷ほりおこしマップコーディネーター料:51,500 阿佐ヶ谷ほりおこしマップデザイン謝礼:20,000 【増減理由】 講師の方で謝礼金を辞退される方がいた。
消耗品費	33,000	32,396	32,396	紙代:6,418 文具代:12,224 のぼり旗代(容器代から変更):13,754
印刷費	136,000	131,020	131,020	コピー代:50,170 ※うち事務所内31,282 (事務所全体の7%を算出。所内で多く印刷をした4-12月のみ計上。) マップ印刷代:80,450 【増減理由】 1月以降は所内印刷の量が減ったため計上しなかった。
通信運搬費	24,000	19,394	19,394	切手代:5,940 宅急便代:9,324 電話代:4,130 ※すべて事務所内 (事務所全体の5%を算出。養成講座など各所への連絡が多かった4-12月のみ計上。) 【増減理由】 1月以降は所内からの電話連絡量が減ったため計上しなかった。
使用料・賃借料	48,000	33,200	33,200	研修会場費:33,200 【増減理由】 想定の間会場費より安価な会場を継続的に利用できた。
備品費	123,600			
その他の経費	60,000	45,490	66,515	交通費:64,040 行事保険:1,410 振込手数料:1,065 【増減理由】 ボランティアフォローなど当初の想定より密にカフェへ足を運んだため交通費がかさんだ。
計	994,600	604,025		執行率 (決算額/予算額) 60.7%
		541,000		予算額計、決算額計とも収入の計と合致すること

5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・成果	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。 <input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。 カフェ活動に定着する人材を育成することにつながった(カフェを自分たちで運営する地域のグループが育った)。単に、カフェに人が来るのが目的ではなく、ひとり暮らしの高齢者や認知症の初期の高齢者に対し、ケアの視点・地域での日頃の声かけなど日常的な生活の支援にもボランティアさんたちの目線が変わり、たすけあいの地域を作る土壌づくりに貢献することができた。
	問5 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がり了吗か。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。 ボランティア養成講座に参加することで、自身が介護をしていどうしても孤独になりがちの中、客観的に状況を見ることが出来て心が軽くなることができた。また、ケアラズカフェでボランティア活動を行う際には自身の経験が他の方に寄り添う糧になっていると自信がいった。(ボランティア養成講座) 今まで、ただ居所があるだけだった地元がカフェマップをつくる。という目的を持って見ると、小さいながらも個々に意志を持って地域活動を行っている人や場所が多数あるということに気づくことができた。(カフェマップ)
	問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。
阿佐谷ブロックにできた3つのコミュニティカフェとサロン、3つの地域包括支援センターがそれぞれつながり、全体として街をカフェを基点に活性化しようという機運が盛り上がってきたこと。その地域資源を支えようとする市民も広がったこと。結果、昨年立ち上げたコミュニティカフェを運営する市民ボランティアがチームとなり、自立につながったこと。またカフェマップづくりを進めるにあたり、地域包括支援センターから各地域に住んでいる市民・民生委員や見守り協力員などボランティアさんに声かけがあり、街をあるいてつどい場スペースになる場探索する活動を実施した。それにより、今後のつどい場がさらに増え、つながる活動のベースができたこと。	
問7 ファンド助成の効果を具体的に記載してください。	
さまざまな地域資源がつながったことで、それぞれの資源を運営する人達の意識が自分のカフェだけでなく地域に広がり、活動の質が地域のケアに変わっていくことができた。資源がつながったことで、長寿応援ファンドの活動助成を受けることができ、活動継続意欲につながった。さらに、つどい場掘りおこしマップの作成過程においても、街の資源をみつめなおす契機となった。またマップができたことで、地域の人達に向けて、場の提供、活動ニーズの掘りおこしなどをもちこんだ発信の機会と成り得た。	
その他	問8 自由意見
	地域のコミュニティカフェやサロンはそれぞれさまざまな形があってよいと思う。重要なのは、それぞれが点として存在するのではなく、運営する人同士が、そうした地域資源の大切さを認識しながらつながって、日常的な情報交換ができる場があるかということだと思う。地域包括支援センターが開かることにより、さまざまなつなぎの機能を果たすことができた。しかし事務運営などのマネジメントはNPO等中間支援団体の存在が必須と感じた。それぞれの継続的な運営を支えるしくみも今後必要である。尚今回の事業は、すべてスタッフ人件費がつかず本部の持ち出しとなった。こうした事業のプロジェクトスタッフの人件費は今後考慮してほしい。

長寿応援ファンド助成活動報告書(平成25年度)

活動テーマ	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input type="checkbox"/> 次世代育成を支援する活動 <input type="checkbox"/> 若者が自主的に企画立案し実施する活動		
活動名	高齢者虐待予防のための啓発事業 ～冊子づくりを通して		
団体名	特定非営利活動法人杉並介護者応援団 (平成 21 年 2 月設立)		
活動費 (事業終了後確定額)	649,299 円		
助成額(当初交付)	500,000 円	助成額(決算)	500,000 円
活動目的	高齢者虐待の多くを占める認知症の被介護者への対応の困難性を鑑み、認知症への理解を促進すること、介護者の孤立感の軽減を図ることで、深刻な高齢者虐待への進行を防ぐことを目的としている。アンケート調査・聞き取り調査等を行い、介護者、介護経験者の声や現状をまとめた報告冊子を作成し、支援策を提言する。地域住民としての共感の上に立った虐待防止、予防の普及啓発活動を行い、潜在している介護者の地域資源の利用、地域との繋がりづくりを図ること、地域包括支援センター、ケアマネージャー等との介護者支援についての連携推進を大きな目的としている。		

1 活動の実施状況

* 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。

実 施 状 況	<p>1、7月31日 活動説明のための啓発講演会開催(於 センオン杉並) 支援者、介護者、一般区民対象、52名参加(杉並社協、社会福祉士会、地域包括支援センター職員含む)</p> <p>2、8月から9月 アンケート調査実施(対象は、介護者、介護経験者、フォーラム参加者、回答110名、配布場所 ゆうゆう高円寺東館、浜田山事務所、介護者の会会場、フォーラム会場など)</p> <p>3、10月から12月 インタビュー調査実施(介護経験者等 9名、実施場所:事務所、介護者の会会場、ゆうゆう館等) 介護体験記依頼(介護経験者5名)</p> <p>4、3月15日 冊子発刊記念発表会として、介護者支援フォーラムの開催(対象:一般 、参加者80名、場所:産業商工会館講堂) 内容:基調講演(高齢者と家族のためのメンタルケア 芦刈伊世子氏)、シンポジウム(介護家族からのメッセージ シンポジスト介護者・介護経験者5名、コーディネーター あい権利擁護支援ネット代表理事池田恵利子氏)、認知症対応についての寸劇の上演、地域資源(サロン、カフェ、介護者の会等)の案内、認知症の方や高齢者に役立つ日用品の展示、報告冊子の配布)、支援者交流会の開催</p>		
	当初計画からの変更点		
	冊子発行部数3000部から1500部、ページ数22ページから54ページに変更、簡単なリーフレット形式から報告書形式に変更		

2 実施活動の効果・成果

* 長寿応援ファンド助成を受けたことによる効果・成果(地域への貢献)を、記入してください。

効果・成果	<p>①杉並区における介護者、介護者の会参加者、介護経験者の現状、課題の把握、(質的な調査を通して)</p> <p>②高齢者虐待予防についての啓発</p> <p>③地域包括支援センター、杉並社協との連携・協働体制強化</p> <p>④介護者の会のネットワーク体制の強化</p> <p>⑤虐待予防についての市民の立場からの提言</p>
-------	--

3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

* 課題の要因も併せて記入してください。

活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定	
課題・活動予定	<p>調査活動を通して介護者・介護経験者の生の声を聞き、アンケート結果から考察を行ったところ、認知症患者を抱える家族の支援の必要性、支えるための地域の資源の必要性を再認識し、26年度は認知症カフェを開催することを決定した。介護や認知症についての情報収集や交流の拠点となるよう、介護者が自然な形で集えるカフェを介護者の会のネットワークと連動させる形で開催する。</p> <p>本活動で介護者支援のネットワークが強化され、NPO、地域包括、社協、地域、医療の連携する仕組みづくりを検討する素地が築けたことで、より地域に根差した形での開催が実現すると考えている。</p> <p>また、高齢者虐待の予防のためには、認知症についての理解を深め、認知症患者を抱える介護者を支える体制が重要との調査結果を得た。次年度の活動として予定していた認知症サポーター養成講座の幅広い展開についても、当事業の実施により地域包括支援センターとの協力体制を築くことができたため、小学生対象の講座を更に進めていく予定である。</p>

4 収支決算書

* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

		予算額(円)	決算額(円)	内訳
収入	長寿応援ファンド助成金	500,000	500,000	
	団体負担金	52,000	49,299	会費収入より
	活動収入	20,000		
	その他の収入		100,000	寄付金
	計	572,000	649,299	予算額計、決算額計とも支出の計と合致すること

費目	予算額(円)	決算額(円)		内訳・増減理由
		うち 助成額		
謝礼金等	230,000	210,000	250,000	講師謝礼30,000円×3名 アドバイザー84,000円(1名)、40,000円(1名) コーディネーター20,000円(1名)、16,000円(1名) 冊子制作後の発表会のみ実施予定であったが、事業開始にあたってネットワーク構築のためのフォーラム・講演会を実施したため、基調講演の講師謝礼が発生した。予算内で、支払対象や金額の割り振り、変更を行った。
消耗品費	75,000	60,000	64,799	椅子・テーブル購入60,000円 文具・用紙4,799円
印刷費	200,000	200,000	230,390	チラシ2,000円(@2×1000枚) 資料印刷7,500円(5×2(両面)×50部×15枚) リンググラフ印刷分890円 フォーラムチラシ20,000円(@20×1000枚) 報告書(冊子)200,000円
通信運搬費	8,000	10,000	12,330	通信費(切手、郵送料)12,330円
使用料・賃借料	20,000	20,000	31,730	打合せ会場費5,000円(@1,000×5回) 7月31日講演会・交流会会場使用料8,980円 3月15日フォーラム会場使用料17,750円 事業始動の際に講演会を開催したため、会場使用料が2回分発生した
備品費				
その他の経費	39,000		60,050	交流会飲食費10,735円、交通費39000円、調査協力者への謝礼(図書券)10,000円、振込手数料315円(以上助成金対象外)
計	572,000		649,299	執行率 (決算額/予算額) 113.5%
		うち 助成額	500,000	予算額計、決算額計とも収入の計と合致すること

5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・成果	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。
	問5 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。
	問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。
	介護者の会参加者の声を集め、生の言葉で語ることで、潜在する介護者(繋がっていない方々)に響くものがあったのではないかと感じている。シンポジウムでは経験者の言葉に傾きながら聞き入る参加者が多く見られ、介護者の会等の社会資源を利用するための動機づけになったとの言葉を頂いた。区内の介護者の会の状況を地域の方々、支援者の方々により具体的な形で知って頂くことで、介護者・要介護者を含めた支え合い、互助・共助の意識を高めていきたい。聞き取り調査のために浜田山事務所のテーブルと椅子を購入し、地域に開放する準備を進めている。
問7 ファンド助成の効果を具体的に記載してください。	
介護経験についての調査を行い、活動を進める中で、地域包括支援センター、社協、社会福祉士会、医療職等の支援者の連携が進み、次年度の医療連携型認知症カフェの立ち上げに繋げることができた。冊子発表会(フォーラム)の開催を通して、介護者や支援者からの問い合わせ等が寄せられ、啓発の効果があったと感じる。調査に協力を頂いた家族介護者や介護経験者の発信の意欲や介護者支援についての意識の高揚、自助力の向上に効果があったと感じている。これを、次年度の地域大学の講座開催につなげ、認知症カフェサポーター等の活動を担う人材の養成を行うこととなった。	
その他	問8 自由意見
	介護者の会の運営支援の中で散見される介護者の軽微な虐待事例への対処、虐待予防の方策をさぐるための調査を行い、報告書を作成するというのが、当初の目的でしたが、予想以上に力を必要とする大きな仕事であったと感じています。活動の成果、また評価もただちに出るものではないと思いますが、当団体にとっては、設立9年目にあたって、今までの活動を見つめなおし、前進するための契機となりました。飛躍のための機会を与えて頂いたことに感謝し、更に地域に根付いた活動を進めてまいります。

長寿応援ファンド助成活動報告書(平成25年度)

活動テーマ	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input type="checkbox"/> 次世代育成を支援する活動 <input type="checkbox"/> 若者が自主的に企画立案し実施する活動		
活動名	退職シニアの「地域デビュー」を後押し(情報誌作成など)		
団体名	杉並シニアねっと (平成 25 年 3 月設立)		
活動費 (事業終了後確定額)	454,843 円		
助成額(当初交付)	444,000 円	助成額(決算)	444,000 円
活動目的	<p>団塊の世代を中心に退職した(あるいは間もなく退職する)サラリーマンは、地域に仲間や居場所がない人が少なくない。現役時代に培った体験やノウハウを地域で役立てたいと思いながら、それを生かす場所が分からず、試行錯誤している人もいる。こうした世代を地域に眠らせておくのは社会的にも損失。</p> <p>そこで、退職シニアの「地域デビュー」を促すため、①杉並区で地域活動や趣味、スポーツなどを行っている団体・個人らを紹介し、併せて杉並区の街の話題、歴史・文化などの情報を提供する雑誌の発行②杉並区のシニアの交流を促進する講演会や各種イベントなどの開催を行う。</p>		

1 活動の実施状況

*** 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。**

実施状況	<p>◆編集会議</p> <p>第1回(5月9日、NPO支援センター)取材テーマと今後のスケジュールを協議 第2回(5月31日、高円寺北区民集会所)「荻窪のまちづくり」を多角的に取り上げることを決定 第3回(6月26日、阿佐谷地域区民センター)HP立ち上げについて議論 第4回(7月22日、阿佐谷地域区民センター)取材案件の進捗状況の確認 第5回(8月23日、NPO支援センター)台割案を提示 第6回(9月27日、NPO支援センター)「熟年フロンティア」の名前、コンテンツなどで議論 第7回(11月1日、NPO支援センター)原稿の最終確認 第8回(12月13日、荻窪「笑笑」)慰労会</p> <p>◆発行記念講演・交流会…2014年3月15日、すぎなみNPO支援センター、入場者60人 テーマ「団塊の世代 こんな活動あり！」 <1部>講演:「いま西荻が面白い！」講師:猪鼻徳壽氏(西荻窪商店会連合会長) <2部>講演:「熟年フロンティア その軌跡と展望」講師:平山真人氏(杉並シニアねっと代表) <3部>交流会</p>
	当初計画からの変更点
	当初は平成25年12月の発行を計画していたが、女子美術大学短期大学部に依頼していたDTP編集と表紙デザインの作業都合で、平成26年2月に遅らせた。

活動名	退職シニアの「地域デビュー」を後押し(情報誌作成など)
-----	-----------------------------

2 実施活動の効果・成果

* 長寿応援ファンド助成を受けたことによる効果・成果(地域への貢献)を、記入してください。

効果・成果	<p>情報誌の作成はブログやメルマガと違って、DTP編集や印刷製本などに費用がかかり、相応の自己資金がないと実現できないが、この助成金のおかげでその資金的課題をクリアできたことが大きい。さらに公的助成金の対象活動であることが、取材先や冊子配布先に信頼感を与えることになり、活動をスムーズに進めることが可能となった。取材やこの雑誌発行により、特にシニア区民に第2の人生を活動的に過ごすことの大切さや、杉並区が抱えるまちづくりの課題など伝えることができた。それが退職シニアの地域活動への参加や地元杉並区への関心を持ってもらうことにつながると思う。</p>
-------	---

3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

* 課題の要因も併せて記入してください。

活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定	
課題・活動予定	<p>(課題) 今回は1年間かけて1冊を作成したが、今後は年間最低2冊を発行したい。その際の課題はDTP編集・表紙デザインを担当した女子美術大学短期大学部が対応できないこと。コストがかからない代替者を確保する必要がある。内容の充実と筆者の負担分散のため、協力ライター(今回4人)をさらに増やすことも課題。 当初見込んでいた企業協賛金5万円は努力不足で確保できなかった。次号以降は粘り強い取り組みが必要だ。</p> <p>(今後の活動予定) 前述のとおり年2回の発行を目指したい。そのためには購読者と協賛企業の確保が大きな課題となる。模索しながらなんとか次号発行への態勢作りを進めたい。その際に、出来上がった「熟年フロンティア」があることは有力な武器だと感じている。</p>

4 収支決算書

* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

	予算額(円)	決算額(円)	内訳
収入	長寿応援ファンド助成金	444,475	444,000
	団体負担金	20,000	10,843
	活動収入		
	その他の収入	50,000	
	計	514,475	454,843

活動名	退職シニアの「地域デビュー」を後押し(情報誌発行など)
-----	-----------------------------

費目	予算額(円)	決算額(円)		内訳・増減理由
		うち 助成額		
謝礼金等	174,000	150,000	150,000	DTP編集50,000円 区民ライター25,000円 イラストレーター35,000円 校正5,000円 簡易HP作成費5,000円 講演会講師30,000円
消耗品費	525	917	525	コピー用紙287円 郵送用封筒630円
印刷費	330,750	283,500	283,500	印刷費247,000円 画質調整費35,000円 運送費10,000円 特別割引△22,000円 消費税(5%)13,500円
通信運搬費	3,200	14,546	4,095	郵送・切手代12,330円 宅配便2,216円
使用料・賃借料	6,000	3,150	3,150	取材・編集会議用の室料3,150円
備品費				
その他の経費		2,730	2,730	振込手数料2,730円
計	514,475	454,843	444,000	執行率 (決算額/予算額) 88.4%
				予算額計、決算額計とも収入の計と合致すること

5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・成果	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。 <input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。
	「熟年フロンティア」第1号に続いて第2号を作成したことで、編集協力者(7人)をはじめ取材先の杉の樹大学、阿佐谷文士村を考える会、男の料理教室「熟バラ倶楽部」、西荻商店会などのネットワークができた。(社福)サンフレンズの「困ったときのSOS」など長寿応援ファンド助成金の対象団体も記事として取り上げ、なかなか日が当たらない地道な活動を広く伝えることができた。
	問5 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。
	読者から寄せられた評価・反応は以下のようなもので、誌面の内容には手ごたえを感じている。「60代の私には関心のある記事が多く、大変参考になった」「特集『シニアの働き方』はイコール『生き方』であり、私個人大変参考になりました。全体に中味が濃く、読み応えがありました」「杉並区のシニアを勇気づける、背中を押す紙面を拝見して元気づけられる思いです」「杉の樹大学や料理教室の紹介はもちろんのこと、他の記事もわかりやすく読みやすい立派な素晴らしい冊子と思います。家内も『筆者の主観ではなく、事実に基づいた文章で構成されており、これはかなりのものだ』と賞賛しています」
	問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。
	「熟年フロンティア」の発行により、多くの区民、特にシニア層に地元杉並でのさまざまな地域活動の実情や杉並区の課題を伝えることができた。それが結果として退職シニアの地域活動への参加を促進するものと期待している。
	問7 ファンド助成の効果を具体的に記載してください。
	雑誌は紙媒体のためDTP編集や印刷・製本の費用がかかるが、自分たちでできない作業だけに助成金でその費用に当てることができたのは大いに助かった。長寿応援ファンドからの助成なので社会的な信用が付加され、取材や配本がスムーズに運んだ。
その他	問8 自由意見
	活動内容によっては複数年度(上限3年間)にわたる助成も検討していただきたい。

長寿応援ファンド助成活動報告書(平成25年度)

活動テーマ	<input type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input checked="" type="checkbox"/> 次世代育成を支援する活動 <input type="checkbox"/> 若者が自主的に企画立案し実施する活動		
活動名	知的障がい者の外出支援とサポーターの育成を行う活動		
団体名	特定非営利活動法人たすけあいワーカーズさざんか (平成 12 年 11 月設立)		
活動費 (事業終了後確定額)	384,345 円		
助成額(当初交付)	380,000 円	助成額(決算)	290,891 円
活動目的	1. 知的な障がいがあるためサポートがあれば外出できるという人を対象に、ウォーキングや畑での収穫、クッキングなど社会参加の機会を提供し、生活に潤いと楽しみを感じていただくこと。 2. 障がい者の外出を支援できるような知識と技能を持った、特に若いサポーターを育成すること。 3. 日常の介護に疲れた障がい者家族の方に、一時的にせよ休息の時間をつくっていただくこと。		

1 活動の実施状況

*** 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。**

実 施 状 況	<p>第1回:2013年5月25日(土)・東京スカイツリー周辺ハイク 参加者:障がい者(9名)、サポーター(7名)、ヘルパー(4名) 荻窪駅に集合し、JRで錦糸町に移動。東京スカイツリー周辺を散策。この日、スカイツリーは近辺から眺めるだけとし、入館することはまた改めてのお楽しみとした。両国まで歩き、江戸東京博物館を見学した。</p> <p>第2回:2013年6月22日(土)・ファーム荻窪、ゆうゆう桃井館 参加者:障がい者(6名)、サポーター(10名) 成田西にある区内農園までウォーキング。農園ではじゃがいも、インゲン、ナスを収穫。その後、荻窪駅まで徒歩で戻り、スーパーで食材を購入。バスでゆうゆう桃井館に向かい、館内のキッチンで調理開始。メニューはブラウンシチューとサラダ。障がい者とサポーターのペアが協力しながら野菜を切ったり、炒めたり、盛り付けしたりと楽しく準備をした。</p> <p>第3回:2013年7月27日(土)・ボウリング&カラオケ 参加者:障がい者(8名)、サポーター(8名)、学生ボランティア(3名) 猛暑の時期なので、熱中症を避けるため屋外での散策の予定を変更し、屋内でボウリング&カラオケとした。(当初、行き先を小内ダムと考えていたが、あまりの暑さに行き先として横浜などを検討し、下見も行ったが、結果的に屋内活動と決定をください。)ガーターをださない「思いやりゾーン」を導入し、障がいのある方とサポーター全員でボウリングを楽しんだ。カラオケでは次から次へとお気に入りの曲を入れ、ミニステージに集まり歌った。この回は、学生ボランティアが3名参加。知的障がい者との交流ははじめてのことだったが、ボウリングでストライクのときにハイタッチ、カラオケでは同じミニステージに立って歌うなど、交流のひとつを過ごした。</p> <p>第4回:2013年9月28日(土)・奥多摩と小内ダム 障がい者(8名)、サポーター(11名) 電車で奥多摩駅まで行き、駅近くの「水と緑のふれあい館」で3D映画鑑賞の後、小内ダムまでハイキングした。日差しは強く、少し道りも厳しかったが、湖の美しさに疲れを忘れた。この回は学生ボランティアが2名参加。「障がい者の方々接する機会が今までなくて何の知識もなかったので、今日のハイキングは不安だったが、参加者の方もサポーターもみんな優しい人です。安心して楽しむことができました。電車やバス、公共の場において障がい者の方の理解がこれからはもっと広がってほしいと思います」と感想を寄せてくれた。</p> <p>第5回:2013年11月30日(土)・油壺マリンパーク&みかん狩り 参加者:障がい者(16名)、サポーター(19名)、学生ボランティア(2名)、ヘルパー(1名) この回はバスをチャーターしてのバスハイク。車イスの方も2名、参加された。油壺マリンパークに到着すると既にイルカショーは始まっていた。劇場に向かう車イス用のスロープは少し距離があったが、学生ボランティアのうち1名が男性で他の男性サポーターとペアになり、車イスの方を安全に誘導した。その帰りにみかん園に寄り、ミカン狩りを行った。事前の下見で、車イスでもみかん狩りができることやトイレの場所なども確認していたので、安全にミカン狩りを行うことができた。(10月27日(土)も予定していたが、台風のため中止とした。)</p>
	当初計画からの変更点
	バスハイクを含め、全部で6回の予定だったが、10月は台風のため、中止にし、全5回の活動となった。 農園に行き、収穫物を使ってクッキングすることは計画段階では2回だったが、1回になった。 7月の回は、猛暑であり熱中症への危険回避から、屋外活動ではなく「ボウリング&カラオケ」という屋内活動となった。

活動名	知的障がい者の外出支援とサポーターの育成を行う活動
-----	---------------------------

2 実施活動の効果・成果

* 長寿応援ファンド助成を受けたことによる効果・成果(地域への貢献)を、記入してください。

効果・成果	<p>学生ボランティアが参加したのは全5回のうち3回だったが、参加した学生たちは初めて知的障がいの方と交流したことで知的な障がいをまず知ることができ、そして知的障がいを取り巻く環境を知ることができた。学生からは「障がいの方への理解をしてほしい」「自分自身ももっと人に対して優しい心を持って接していきたい」という感想を聞くことができた。次世代の人に知的障がいを理解していただき、サポートしていきたいという気持ちは持っていたことができ、当初掲げた効果をあげることができた。</p> <p>全5回、いろいろなバリエーションによる企画であり、8時集合、16時解散のほぼ1日がかりの活動である。知的な障がいのある方たちにいるいろいろな社会体験の提供ができたと思う。行き先を考え、下見を行い、安全にハイキングが行われるよう当日の進行管理を行うのはベテランのシニアボランティア。さざんかハイキングがシニアの活躍の場ともなっている。そして、そのようなサポーターの支えもあり、初めてハイキングに参加し知的障がい者と交流する学生は安全に楽しくサポートすることができた。このような場を創り出したことが一つの地域貢献になっていた。</p>
-------	---

3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

* 課題の要因も併せて記入してください。

活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定	
課題・活動予定	<p>学生ボランティアの獲得が難しかった。大学のボランティアセンターを訪問し、私たちの計画について学生に紹介してもらえるよう依頼したり、別のゆうゆう館協働事業に参加している学生たちに直接、ハイキングのことを話したが、実際のボランティア参加にはうまく結びつかなかった。なお、学生ボランティア枠を毎回2名としていたが、少数なので、大々的に募集できないということも、ボランティアの獲得が難しかった一つの要因とも思われる。</p> <p>来年度以降についても、次世代の人たちに知的障がいを知っていただく機会を提供したいと考えているが、ハイキングのように移動型というのは人数の枠も限られ、安全面でも心配なところがあるので、どこか一箇所に集合するイベント型(たとえばカラオケ大会とかダンス教室)を検討している。</p>

4 収支決算書

* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

	予算額(円)	決算額(円)	内訳	
収入	長寿応援ファンド助成金	380,000	290,891	
	団体負担金	68,730	9,454	
	活動収入	80,000	84,000	全5回の参加費収入
	その他の収入			
	計	528,730	384,345	予算額計、決算額計とも支出の計と合致すること

活動名	知的障がい者の外出支援とサポーターの育成を行う活動
-----	---------------------------

費目	予算額(円)	決算額(円)		内訳・増減理由
		うち 助成額		
謝礼金等	183,000	74,522	74,522	講師謝礼:33,411円(@10,000円×延3名) サポーター下見謝礼:7,700円(@700円×延11名) デザイン謝礼:33,411円(@5,000円×6回) 事前レクチャーは計画では6回だったが実績は3回。延3名の講師に支給。(実際には源泉所得税を載せて支給。)計画では、サポーターには当日、有償ボランティア程度の一律の謝礼金の支給とされていたが(交通費を含めて)、始まってみると回ごとに交通費にバラツキがあったので、一律の謝礼金はやめて交通費の実費を支給した。ただし、下見のサポーターには、昼食代程度の謝礼を支給。(中間報告では、その他経費に下見昼食代として計上したが、実際は謝礼なので謝礼金に計上した。学生に対しては有償ボランティアとして一律の謝礼金ではなく、交通費実費を支給した。予算では「謝礼金」にあげていた外部サポーター、学生への謝礼が実績では「通信運搬費」に計上したので、「謝礼金」は計画より減少した。
消耗品費	20,000	14,350	2,440	食材費:11,910円 物品購入費:2,440円 6月はゆうゆう桃井館でクッキングを行ったのでその食材を購入した。(献立はブラウンシチューとサラダ)3時のおやつにアイスクリームを食した。7月は熱中症対策としてボーリングとカラオケの屋内活動とし、水分補給として飲料水を支給し、昼食時にスイカを食した。
印刷費	16,850			印刷は事業所内のコピーを使用したもので、この事業のみの作成分の領収書なし。
通信運搬費	58,060	84,925	84,925	【交通費】第1回:6,180円(7名)、第2回:3,460円(9名)、第3回:3,660円(8名)、第4回:26,300円(11名)、第5回:8,140円(18名) スカイツリー下見:2,600円(3名)、奥多摩下見:7,900円(3名)、多摩森林科学園下見:4,480円(3名)、油壺下見:7,760円(3名)、横浜下見:4,440円(2名) 交通費計:74,920円 有料道路:8,840円 高速代:850円 アスクル運賃:315円 予算ではサポーター謝礼として「謝礼金」に計上していたが、交通費実費を支給したので「通信運搬費」が増加した。
使用料・賃借料	129,500	122,450	122,450	農園使用料:5,000円 大型バスチャーター代:115,500円 駐車場代(油壺):1,000円 ゆうゆう桃井館使用料:950円
備品費				
その他の経費	121,320	88,098	6,554	行事保険加入料:6,554円 入館料:江戸東京博物館…900円(愛の手帳で障がい者とペアになったサポーターは入館料は無料だが、ペアにならなかったサポーターは有料) ボウリング…34,500円 カラオケ部屋使用料…10,800円 会議参加手当:延13名(11,150円 @850円×8名、@870円×5名) 会議費(お茶代):19,034円(カラオケでの飲料代含む) 写真代:5,160円 会議参加手当はサポーターが全員出席することを想定して予算化した が、実際には全員参加はできなかった。
計	528,730	384,345	290,891	執行率 (決算額/予算額) 72.7% 予算額計、決算額計とも収入の計と合致すること

支出

活動名	知的障がい者の外出支援とサポーターの育成を行う活動
-----	---------------------------

5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
効果・成果	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・成果	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。 <input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。
	計画では全6回のところ、5回実施でき、そのうち3回、学生ボランティアの参加を得ることができた。学生ボランティアに対しては、事前に知的障がいについて及び知的障がい者との交流においての心得をレクチャーした。講師は、知的障がい者のガイドヘルプ研修担当者及び知的障がい者の就労支援担当経験者が務め、的確なレクチャーを行うことができた。次世代の若者たちにとってはよい福祉教育の場となった。学生たちには事前レクチャー及び当日の交通費を支給し、参加への支援ができた。参加障がい者の家族にとってはレスパイトの場ともなり、信頼を得、新しい参加者を募ることができた。
	問5 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がり了吗か。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。 「障がいのある方に対する世間の目は冷たいなあと思うことも多々あって、悲しいと思ったり、心が痛くなりました。その反面、オンステージの時に、女性の方が笑顔で様子を見ていてなんだか嬉しかったし、もっとたくさんの人たちが障がいの方への理解をしていただけたらいいなあと思いました。」(学生サポーター) 「みんなとっしょにカラオケで歌えて楽しかった」(障がいの方) 「退職してはじめて障がいのある人と関わったが、こういう機会が持てて本当によかった。退職してからというのが遅いらい」(シニアサポーター)
その他	問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。
	全5回、いろいろなバリエーションによる企画であり、8時集合、16時解散のほぼ1日がかりの活動である。知的な障がいのある方たちにいろいろな社会体験の提供ができたと思う。行き先を考え、下見を行い、安全にハイキングが行われるよう当日の進行管理を行うのはベテランのシニアボランティア。さざんかハイキングがシニアの活躍の場ともなっている。そして、そのようなサポーターの支えもあり、初めてハイキングに参加し知的障がい者と交流する学生は安全に楽しくサポートすることができた。このような場を創り出したことが一つの地域貢献になっていた。
	問7 ファンド助成の効果を具体的に記載してください。
参加した学生たちは初めて知的障がいの方と交流したことで知的な障がいをもっと知ることができ、そして知的障がいを取り巻く環境を知ることができた。学生からは「障がいの方への理解をしてほしい」「自分自身もっと人に対して優しい心を持って接していきたい」という感想を聞くことができた。次世代の人に知的障がいを理解していただき、サポートしていきたいという気持ちは持っていただくことができ、当初掲げた目標を達成することができた。	
問8 自由意見	
第2回にクッキングを行った。障がい者とサポーターがペアになり、調理を行い、障がい者にとって一つの社会参加となった。調理にあたっては、食材を購入した。食材費は助成対象外とのことだが、一律食材費は対象外ではなく、内容によっては対象としていただきたい。(同様に、熱中症対策で7月はボウリング&カラオケという屋内活動とした。計画外の活動となり、計画外の活動にあたるので入館料は助成対象外とのことだが猛暑という自然現象を考慮に入れていただくことをお願いしたい。)	

長寿応援ファンド助成活動報告書(平成25年度)

活動テーマ	<input type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input checked="" type="checkbox"/> 次世代育成を支援する活動 <input type="checkbox"/> 若者が自主的に企画立案し実施する活動		
活動名	街に段ボールで映画館をつくらう！ すぎなみ・魅力発見～こどもシネマキャラバン		
団体名	ちいさなひとのえいががっこう (平成 16 年 6 月設立)		
活動費 (事業終了後確定額)	422,585 円		
助成額(当初交付)	430,000 円	助成額(決算)	384,085 円
活動目的	活動を通じて、自分たちが住む街に子どもたちが興味を持ち、その場所や人とのつながりを感じるようになる。親や関わった大人たちも、子どもたちの視線を通じて、街の新しい魅力を発見する。杉並は、その人口に比して映画館の数が極端に少ない。「自分たちの街・杉並での映画体験」を子どもたちに残したい。 参加者同士の交流の場ともなることを目指す。		

1 活動の実施状況

*** 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。**

実 施 状 況	<p>第1回…日時:平成25年8月31日(日)10時30分～17時30分/会場:杉並区立中央図書館、読書の森公園 対象者及び参加人数:広く一般の親子9組23名(大人11名、子ども12名) 特別講師の田中さとしさんの指導のもと、午前中は図書館の視聴覚ホールを会場に工作道具「メイドゥ」の使い方や段ボールの性質を学び、慣れるための練習を繰り返した。午後からは段ボール映画館の制作に着手。パーツを切り出し、組み合わせてドームを完成。図書館に隣接する読書の森公園へ移動し、木陰に設置作業を行なう。一方で、子どもたちは上映会のお客様の呼び込みのためのチラシを作成し、図書館の利用客に対して宣伝活動を行なった。入替制で作品を鑑賞し、最後にドームの前で記念撮影。視聴覚ホールに戻ってドームを解体し、それぞれ段ボールの切れ端にその日の活動の感想を書き込んで終了した。</p> <p>第2回…日時:平成26年1月18日(土)10時～16時/会場:杉並区立天沼小学校 対象者及び参加人数:天沼小学校に通学する子どもと保護者37組77名(大人37名、子ども40名) 小学校のセンターコートと家庭科室を会場に、午前中は映像制作を行なった。PCとwebカメラによるコマ撮り映像と、タブレット端末とアプリを活用した逆回転映像の2種類。午後からは第1回の実施時とほぼ同じ流れで、特別講師の田中さとしさんの指導のもと、段ボール映画館の制作および午前中に撮影した映像作品の上映会を実施した。この日は、チラシ作成ではなく、映画館の看板を考えて創作することにした。</p> <p>第3回…日時:平成26年3月29日(土)10時～16時/会場:信光寺(杉並区松ノ木) 対象者及び参加人数:広く一般の親子9組22名(大人10名、子ども12名) 1日の流れは第2回と同じく、午前中を映像制作、午後を段ボール映画館の制作及び上映会とした。映像制作は、逆回転映像の1種のみとした。会場は真宗大谷派のお寺。本堂や庫裡で映像撮影を行ない、段ボールドームは本堂の広間で工作し、設置した。</p> <p>※3回分のレポートは団体のブログに掲載済み。 http://yaplog.jp/eigagakkou/ ※ブログのレポート出力および報告用DVD(記録写真と完成作品を収録)も添付</p>
	当初計画からの変更点
	<p>ほぼ当初の計画通りの内容、回数、参加対象で実施することができた。こまかな変更点では以下の通り。</p> <p>1、第1回実施時は、段ボールドームの制作が初めてのため、労力、コスト、必要時間などが見込みでしかなかったため、映像制作を活動当日には行なわなかった。(前週8/24に同じく図書館にてあらかじめ子どもたちが撮影したコマ撮り映像を上映)</p> <p>2、第2回に協力いただいた天沼小学校の学校支援本部の要望により、当初予定していた定員の2倍近くの希望者をすべて受け入れた。結果的にプログラムに対して大人が参加する時間・内容が総体的にやや減ったため、大人からは参加費を徴収せず、子どものみ徴収した。また天沼小内で実施するプログラムについては、あらかじめ児童は傷害保険に加入しているため、子どもの参加費も100円分(保険料)を減額し、400円とした。</p>

活動名	街に段ボールで映画館をつくろう！ すぎなみ・魅力発見～こどもシネマキャラバン
-----	--

2 実施活動の効果・成果

* 長寿応援ファンド助成を受けたことによる効果・成果(地域への貢献)を、記入してください。

効果・成果	<p>効果</p> <p>1、認定を受けたことにより、団体および活動内容への信頼を得ることができた。3回目の実施時には、特に杉並区教育委員会の後援を受けている活動ではないにも関わらず、複数の小学校でチラシ配布のご協力をいただいたことも、この効果が大きいと考える(東田小、杉並第三小では全校配布、そのほか堀之内小、松ノ木小、杉並第六小、大宮小では部分配布の協力を得た)</p> <p>2、全く新しい財源を確保できたことにより、これまで構想にありながら実現できずにいた企画に、初めて挑戦できた。</p> <p>3、3回目の会場となった信光寺など、新たなネットワークが形成できた。</p> <p>4、大小のプロジェクターや、Blu-rayプレイヤー、工作道具メイクドゥなど、今回の活動はもちろんのこと、今後、継続的に活動を展開していく上で、様々な活用できる機材を揃えることができた。</p>
	<p>成果</p> <p>1、多くの杉並区民(一部に区外も含む)の参加を得ることができた。</p> <p>2、信光寺の松永住職も発言されていたが、「昔は人が寄り集まるコミュニティの核だったお寺と映画館が、往事の賑わいで再び結びつくことができた」。お寺に限らず、図書館や公園、小学校といった場所での活動にも同様のことが言える。</p> <p>3、参加者(親子)にとっては、これまでにない映画体験が自分達の街・杉並で得ることができた。</p> <p>4、(工作ワークショップはなかなか大変な作業のため)結果的に、参加者同士の協働が不可欠で、同窓生はもちろん、初めて顔を合わせるような参加者同士でもコミュニケーションを図る交流の機会ともなった。</p>

3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

* 課題の要因も併せて記入してください。

活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定	
課題・活動予定	<p>課題</p> <p>1、資金源の安定した確保。他の多様な助成金なども申請しているが、限られた予算枠で実施できるよう検討する。</p> <p>2、段ボール映画館プログラムの改良。時間配分が難しく、一日ですべてを終わらせるには足りないが、二日以上にわたっての開催はコスト、労力ともに大きな負担となる。</p> <p>3、さらなる新しい協働者の確保。次回会場を引き受けてくださるような、コミュニティの核となる施設を探す。</p> <p>4、段ボール映画館に限定せず、新しいプログラムの開発。メイクドゥを使った工作ワークショップは、ドームを制作するだけでなく、もっと様々な表現を可能とできる。</p> <p>5、より地域に根ざした活動を模索、杉並の魅力を発信できるように務める。</p>
	<p>活動予定</p> <p>1、年に1回程度の段ボールを活用した映画ワークショップの実施</p> <p>2、図書館を会場とした定期的な親子上映会の開催</p> <p>3、新たなネットワークを活かした出前上映会の実施</p>

4 収支決算書

* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

	予算額(円)	決算額(円)	内訳	
収入	長寿応援ファンド助成金	430,000	384,085	
	団体負担金	47,490	0	
	活動収入	22,500	38,500	参加費400円×85人=34,000円 保険料100円×45人=4,500円
	その他の収入	0	0	
	計	499,990	422,585	予算額計、決算額計とも支出の計と合致すること

活動名	街に段ボールで映画館をつくろう！ すぎなみ・魅力発見～こどもシネマキャラバン
-----	--

費目	予算額(円)	決算額(円)		内訳・増減理由
		うち助成額		
謝礼金等	75000	69,000	45,000	講師謝礼15,000円×延3回・人=45,000円 スタッフ謝礼1,500円×延16回・人=24,000円*助成対象外 (微減)当日運営の人手が必要と見込まれたので、スタッフ謝礼の単価を予算額より抑え、また助成対象外として計上したため減少した。
消耗品費	94300	117,082	117,082	配布資料用紙代2,310円/工作材料費21,209円 工作道具51,262円/DVD-R代3,940円 封筒2,246円/文房具代16,080円/薬796円 参考書籍代8,979円/インク代10,260円 (増)活動を実施するたびに、より充実した内容を目指し、工作材料や文房具を買いそろえたため、当初の想定よりやや増加した。
印刷費	39000	31,750	21,350	チラシ印刷3回29,650円(うち1回10,400円を助成対象外) ポスター印刷2,100円 (減)ポスターの印刷を1回に減らし、チラシ1回分を助成対象外として計上したため減少した。
通信運搬費	40800	52,562	49,562	チラシ及び資料郵送費17,730円 当日および事前活動までの旅費延24人・日28,792円 (うち2人・日3,000円を助成対象外) 機材運搬費6,040円 (増)活動場所が広域にわたったこと、事前準備のために交通費が予算より多少かかったため、やや増加した
使用料・賃借料	26000	8,890	8,890	参考試写レンタルDVD代8,890円 (減)映像作品が完成しなかった場合に、配給会社などから使用料をお支払いして映画を上映することも検討していたが、実際には子どもたちが制作した映像だけの上映でも十分に内容の濃いものとなった
備品費	220390	134,645	134,645	プロジェクター(大)76,780円 プロジェクター(小)23,465円 Blu-rayプレイヤー9,350円/周辺機材25,050円 (減)リサーチなどを行った結果、プロジェクターの性能は高位機種よりも、中位程度の方が目的に即した効果(映像品質、大きさ、重量など)が得られることがわかったため、やや低額のものを購入。むしろ、ケーブルなど周辺機器への経費が必要であった
その他の経費	4,500	8,656	7,556	講師打ち合わせ費1,100円 傷害保険料6,500円 振込手数料1,056円 (増)想定より参加者が増えたため、保険加入費用が増加
計	499,990	422,585		執行率 (決算額/予算額) 84.5%
		うち助成額	384,085	予算額計、決算額計とも収入の計と合致すること

活動名	街に段ボールで映画館をつくろう！ すぎなみ・魅力発見～こどもシネマキャラバン
-----	--

5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
効果・成果	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
<p>長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。</p> <input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった	
↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。 多めに受け入れた第2回を除けば、ほぼ計画通りの参加者(数)を対象として実施できた。	
効果・成果	問5 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。 参加者からは「親と子どもが協力して取り組めるのが良い」という声が多く寄せられた。過去に団体の活動に参加した経験のある親子もいたが、ほとんどは今回の段ボール映画館をきっかけに初参加された親子たち。スクール・アドバイス・ネットワークや、お寺、小学校と学校支援本部など、幅広い方々と協働事業を実施することができた。
	問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。
信光寺の松永住職や、特別講師の田中さとしさんも「コミュニティの核」となるお寺の位置づけや、人と人を結びつける媒介としての「映画」および「ワークショップ」という協働作業からも得られるところが多かったとお寄せいただいた。また、なみすけやナミーを使った映像製作は子どもたちに大人気で、それぞれのキャラクターを通して杉並にも、より親しみを感じてもらえたのではないかと。	
その他	問7 ファンド助成の効果を具体的に記載してください。
	①団体および活動への信頼を得ることができ、②従来とは違った新しい企画への挑戦が可能となった。③信光寺など新たなネットワークも築き、④今回および今後の活動の質と継続性を保つための機材の整備を行なえたことは大きい。
その他	問8 自由意見
単なる資金面での援助だけでなく、精神的なバックアップにもつながっていると感じるが多かった。杉並区を中心に活動を続けてきたボランティア団体だが、あらためて「コミュニティを活力あるものにするためには」「人と人を結びつけること」などを考え直す機会ともなり、とても学ぶところが多く、これからの活動に道筋を与えてくださったものだと感謝しております。本当に有り難うございました。	

長寿応援ファンド助成活動報告書(平成25年度)

活動テーマ	<input type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input checked="" type="checkbox"/> 次世代育成を支援する活動 <input type="checkbox"/> 若者が自主的に企画立案し実施する活動		
活動名	地域の教育経験者による無料の子どもの学習支援		
団体名	NPO法人まちの塾フリービー (平成 24 年 1 月設立)		
活動費 (事業終了後確定額)	659,144 円		
助成額(当初交付)	646,000 円	助成額(決算)	646,000 円
活動目的	経済的理由によって塾に通えない、または長期欠席や理解力の不足のために学習進度に遅れがあり一般の塾での学習も困難な小・中・高生を対象として、教育経験を持つ地域の大人がその知識と具術を生かして計画的・長期的に学習支援を提供します。杉並区内には小・中学生をあわせると毎年250人以上の不登校児がおり、長期的に教育を受けていない場合、義務教育の基盤が身につかないまま成人する可能性があります、今後さらに支援を続ける必要があり、区内の豊かな人的資源を活用させて頂き、さらにこの活動を広げたいと思います。		

1 活動の実施状況

*** 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。**

実 施 状 況	<p>団体設立時は永福町教室を永福和泉区民センターで毎週木曜日夜7時から9時まで開催。その後方南町教室を開きましたが、生徒の数が増えそれに見合う会場がなく残念ながら閉鎖。昨年9月からは阿佐ヶ谷教室を開きました。</p> <p>現在は、永福町教室を木曜日に、阿佐ヶ谷教室を月曜日に、それぞれ区の施設を使用して夜7時から9時まで月に3回ずつ開催しています。生徒数はそれぞれ20名前後の登録者の中から15名ぐらいが参加しています。</p> <p>講師は登録者数15名の中から、6、7名が毎回授業をしています。</p> <p>年齢層は小学生高学年から高校年次まで、フリービーに参加している背景は様々です。経済的な理由を筆頭に、不登校や発達障害を持つ子どもたちも頑張っています。</p> <p>講師の先生方の多くは元私学や塾の先生の方々です。また、理系の職業についておられる地域の方々も高校生の数学や物理・化学を教えていますので、幅広く対応することが可能になりました。</p> <p>フリービー教室外では、社会福祉士会による中3勉強会でも学習支援の責任団体として、不登校の子どもたちへの学習支援をしています。また、杉並区立泉南中学校では、昨年夏休みから英語の出張授業を行っています。</p>
	当初計画からの変更点
	<p>講師研修会は4回計画しておりましたが、2回の開催となりました。</p> <p>予算も会場費に振替させて頂きました。</p> <p>教室は当初の予定通り永福町の次に和田地区での教室を開催いたしましたが、予想外に生徒が集まり集会所が使用できなくなり残念ながら閉鎖いたしました。</p> <p>現在は阿佐ヶ谷と永福町で開催しております。</p>

活動名	地域の教育経験者による無料の子どもの学習支援
-----	------------------------

2 実施活動の効果・成果

* 長寿応援ファンド助成を受けたことによる効果・成果(地域への貢献)を、記入してください。

効果・成果	<p>長寿応援ファンドの助成を受けたことは保護者の方々の信頼を得る一つの根拠となり、また地域の多くの人々にもフリービーの活動に関心を持ってもらえたことの効果は絶大でした。</p> <p>特に地域のシニア層の講師の方々に多く集まって頂いたことが大きな力となってこの一年間活動することができました。</p> <p>杉並区内の人的資源を有効に使わせていただくことがこの事業の柱の1つでしたので、長寿応援ファンドの助成を受けている団体として認知されたことが、優秀な講師の方々にお集まりいただいた理由だと思います。</p>
-------	--

3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

* 課題の要因も併せて記入してください。

活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定	
課題・活動予定	<p>今後の課題は、同じ場所で同じ時間に毎週教室を開くことです。</p> <p>特に発達障害を持つ子どもにとって場所や時間が変わることは大きなストレスとなり継続して参加できなくなる要因の1つとなります。</p> <p>現在永福町は比較的区民センターが空いているため予約しやすいのですが、阿佐ヶ谷地域は混雑しているため、区民センターと産業商工会館の2ヶ所を使用しており、度々生徒たちに混乱を与えています。</p> <p>すぐに解決ができることではありませんが、今後取り組むべき大きな課題であると考えています。</p> <p>今後の活動は、現在の阿佐ヶ谷と永福町の教室の継続とをすることが第一です。また、荻窪あんさんぶるの学習支援と泉南中学校での英語補習授業がすでに決まっておりますので、講師の方々の募集を続行しつつ活動してまいります。</p>

4 収支決算書

* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

		予算額(円)	決算額(円)	内訳
収入	長寿応援ファンド助成金	646,000	646,000	
	団体負担金	140,000	13,144	
	活動収入			
	その他の収入			
	計	786,000	659,144	予算額計、決算額計とも支出の計と合致すること

活動名	地域の教育経験者による無料の子どもの学習支援
-----	------------------------

費目	予算額(円)	決算額(円)		内訳・増減理由
			うち 助成額	
謝礼金等	120000	71,000	60,000	10,000円×1名 17,000円×1名 3,000円×1名 20,000円×1名 21,000円×1名 当初は120,000円の予算であったが会議室の使用料に 60,000円を当てたため、結果的に講演会の費用が予算を 超えてしまった。
消耗品費	166000	133,985	131,849	インクトナー51,873円 コピー用紙57,800円 ホワイト ボード用ペン21,200円・3,112円
印刷費				
通信運搬費				
使用料・賃借料	115000	131,320	131,320	永福町教室 75,255円 方南町教室 24,000円 阿佐ヶ谷教室 32,065円 生徒の増加により、予定していた大きさの教室では間に合 わなくなり、より広い会議室を借りたために予算を超えた
備品費	220000	198,800	198,800	プリンター 82,000円 パソコン116,800円 プリンターの代金はアマゾンの安売りの価格だったが購入 時には売り切れており家電量販店で同機種を購入したが 価格は高かった。またパソコンは軽量でwi-hi内臓で固定 費が安いものを買ったが1台あたり116,800円と高価だっ たため、1台のみ購入。しかし軽いのでどの教室にも持ち 歩ける。
その他の経費	165,000	124,039	124,031	web会計費 50,000円 教材費74,039円
計	786,000	659,144		執行率 (決算額/予算額) 83.9%
			うち 助成額	646,000
				予算額計、決算額計とも収入の計と合致すること

5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。 <input type="checkbox"/> 適切であった <input type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input checked="" type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・成果	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。 <input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。 この一年間は当初の活動目的に沿って、計画したものはほぼ達成できたと思います。シニア世代の方々を含めた地域の豊かな人的資源によって、塾に通えない環境下の子どもたちの学習支援を杉並区内に展開することができました。小学生高学年から高校年次まで、2ヶ所の教室にそれぞれ15名から20名ほどの子どもたちが集まり、5～6名の講師によって手厚い学習指導を受けています。この3月には、フリービーとしては初めての高校受験を迎えましたが、7名の受験生全員が志望校に合格することができました。
	問5 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。 資金が少ないため現在は阿佐ヶ谷教室・永福町教室共に毎月3回のみ教室を開催していますが、不登校や発達障害のため学習が著しく遅れている子どもたちからも毎週勉強したいという声が上がります。また、講師として参加頂いているシニア世代の方々からは、やりがいがあり元気なうちはずっと参加しつづけたいとお話を頂いています。高校受験合格発表の時には生徒たちとともに喜びを分かち合い、保護者の方々からも感謝の言葉をいただきました。
	問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。
保護者の方々にもご理解をいただき、ロコミで生徒が増えています。また、荻窪の中3勉強会ではフリービーの講師陣による学習支援にご理解を頂き、3年目となる今年度からは高校生に重点を置いて支援を広げることとなりました。また、私共の英語の授業に関心を寄せて頂き昨年の夏休み期間から杉並区立泉南中学校での英語補習事業を受託しており、今年度も引き続き土曜日の英語補習授業を続けることとなりました。このように多方面に活動が広がり継続することによって様々な状況にある子どもたちを下支えする機会が増えており感謝しております。	
問7 ファンド助成の効果を具体的に記載してください。	
まずは、軽量ノートパソコンの購入によって、通信教育を受けている子どもたちと教室でもメディア授業を一緒に見られるため、かなりの労力が省けます。また高性能のプリンターのおかげで100枚単位のプリントがすばやく作成することができるようになり非常に効率的です。会場費の助成によって、教室を2ヶ所に増やし維持しております。この助成金は、NPO法人として学習支援事業を始めて以来最初に頂いた助成金ですので、何もないところから現在の事業の形が作れたのは長寿応援ファンドのおかげです。	
その他	問8 自由意見
昨年1月にNPO法人として事業を始めて1年間、手探りで走り続けてきたように思います。前述いたしましたが、こちらの助成金を頂いていなければ、たった一年間でここまで地域の中で活動を続けることは不可能でした。シニア世代の優秀な講師の方々にご参加頂けたのも長寿応援ファンドの力だと思えます。今後はこの活動を維持・拡大するために資金調達にも力を入れていきたいと思えます。一人でも多くの子どもたちが希望をもって明るく元気に生きていってくれるよう頑張っ参ります。ありがとうございました。	